

PRAEVIDENTIA DAILY (7月2日)

昨日までの世界：「リスクオン」は新興国通貨には波及せず

昨日は、多くの対主要通貨ではドル安基調となった一方、対円や対新興国通貨ではドル高となった。株高の中で豪ドル、NZドルやカナダドルといった資源国・高金利国通貨が上昇したため「リスクオン」的な動きに見えるが、米長期債利回りが上昇している中で、ロシアルーブル、トルコリラ、南アランドなどの新興国通貨は下落しており、金融市場が全体として「リスクオン」だった訳ではない。

豪ドルは、RBA 理事会で政策金利を 2.50% で据え置き、声明文も前回から殆ど変更がなかったが、当社を含め市場は最近の豪州経済指標の悪化を受けてハト派化するとみている向きが多かった中で、実際は声明文がハト派化しなかったことから、豪ドルが買い戻されたとみられる。NZドルは豪ドルやカナダドルと同様に欧米時間に株高の中で上昇したが、世界乳製品取引 (GDT) オークションで乳製品価格が 4.9% 下落したことから、その後 NZドルは反落している。**カナダドル**は 7月16日のカナダ中銀会合でタカ派化しないことが確認されるまでは堅調が続き、米ドル/加ドル相場は 1.06 ドルを下回る水準まで下落 (カナダドル高) する可能性がある。

ポンドは、英 6月製造業 PMI が 57.5 と前月および市場予想を上回ったことから早期利上げ期待が強まり上昇、対ドルで一時 1.7166 ドルと 2008 年以來の水準へ上昇、ユーロ/ポンド相場は一時 0.7973 ポンドへ下落 (ポンド高) し直近安値 0.7954 ポンドに迫る水準となった。当社はポンド/ドル相場が来年にかけて 1.74 ドルへ続伸するとみている ([当社の主要通貨予想](#) を参照)。

ドル/円は、日経平均株価の上昇と共に強含み、欧州時間にかけて 101 円台後半へ持ち直したが、NY 時間の米長期債利回りの上昇にもかかわらずその後ドル/円は伸び悩んだ。日銀短観は大企業製造業の業況判断 DI が 12、先行き見通しが 15 といずれも市場予想を下回ったが、非製造業の業況判断や大企業全産業の設備投資は市場予想を下回っておらず、全体として、「増税後の反動減は事前の想定範囲内」という日銀の認識を覆すような内容ではなく、追加緩和期待を高めるような内容でもない。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.01	+0.01	-0.00	+0.04	+0.03	-0.01	+0.7	+1.1	-0.0	-0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.02	-0.01	+0.01	-0.03	+0.00	+0.03	+0.8	+0.7	-0.1	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.3	+0.03	+0.03	+0.01	+0.00	+0.04	+0.03	+0.9	+0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.7	+0.03	+0.03	+0.01	+0.01	+0.05	+0.03	+0.7	+0.1	-0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.03	+0.04	+0.01	+0.01	+0.04	+0.03	+0.7	+0.1	-0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.4	+0.01	+0.01	+0.00	+0.02	+0.03	+0.01	+0.7	-0.0	-0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅 (%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ADP が多少下振れてもドルは下がりにくい

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑、GBP/JPY ↑

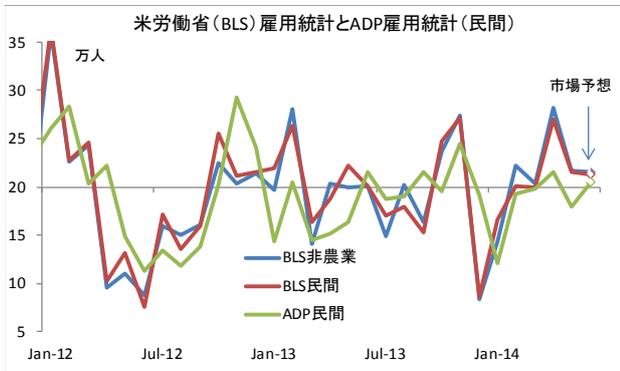
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 5 月貿易収支・豪ドル	10:30	-1.22 億	-2.00 億	
英 6 月ネーションワイド住宅価格・前年比	15:00	+11.1%	+11.2%	
英 6 月 PMI 建設業	17:30	60.0	59.8	
DeBelle・RBA 総裁補発言	20:05			金融市場担当
米 6 月 ADP 民間雇用統計	21:15	+17.9 万人	+20.5 万人	
Yellen・FRB 議長発言	24:00			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は明日発表の米雇用統計の前哨戦として **ADP 民間雇用統計** が注目される。ADP 民間雇用統計は過去 2 か月、米雇用省 (BLS) の非農業部門および民間雇用を下回って推移しており、やや先行指標として使いにくくなっているが (下図を参照)、20 万人程度の伸びを確保できるかが注目され、25 万人に近い結果であれば明日の雇用統計の良好な結果をある程度織り込んで主に対円でドル高となるだろう。他方、前月 (+17.9 万人) と同程度に留まる弱い結果の場合でも、過去 2 か月の BLS 雇用統計対比の下振れ傾向が続いたと解釈され、あまりドル売りにはならないかもしれない。いずれにせよ、10 月までは Fed のテーパリングの「自動操縦」が続く中で、雇用統計の結果が直接的に目先の Fed の金融政策スタンスに影響を与えないため、ドル/円のレンジ相場脱却には繋がりそうにない。

ポンドは、昨日の製造業 PMI に続き、本日発表の英建設業 PMI が前月および市場予想を上回れば続伸するだろう。

豪ドル関連では**豪貿易収支**が注目される。豪州では鉄鉱石を中心とした資源輸出の好調から昨年 12 月から今年 3 月まで貿易黒字を計上していたが、足許は鉄鉱石価格の下落の影響が大きいこともあって赤字化しており、5 月分も赤字が小幅ながら拡大予想となっている (下図を参照)。赤字定着は豪ドルにとって悪材料だが、最近では米ドルの軟調もあってなかなか豪ドルが下がらず堅調に推移する状況が続いている。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641